

地域に即した持続可能な交通網の形成について

本市における公共交通はこれまでも、交通事業者による単独維持が困難な路線に対し、補助金を交付するほか、交通需要が少ない地域においては、バス路線から『乗合タクシー』又は『スクールバス住民混乗』へ転換する等、地域住民にとって必要な交通手段の確保に努めてきました。今後も人口減少が見込まれ、さらなる利用者の減少が危惧される中、利用者数の増加へ向けた取り組みはもちろんのこと、行政・交通事業者だけでなく、利用者も一体となって、持続可能な交通網の形成を進めていくことが求められます。

つきましては、現在の交通網を基に、各交通手段に係る方向性を下記のとおり整理し、今後の本市における“持続可能な交通網の形成”について確認します。

1. 市内バス路線（補助路線含む）

補助路線（声問線・富士見線・坂の下線）と宗谷バス単独運行路線の両路線で同じ経路を運行している部分があることから、利用者ニーズを調査し、利用者の利便性が低下しないよう路線同士の接続を重視した上で、効率的な路線への再編等を行う。

2. 天北宗谷岬線バス

令和5年10月頃に予定している再編へ向け、隣接する猿払村等と運行費用の負担割合や、ダイヤ編成について引き続き協議を行い、市内運行経路を変更するなど、利用者の利便性を向上させると同時に、利用者増加へ繋がる運行体系の構築を進める。

3. 天北地区、恵北・増幌地区乗合タクシー

曲淵線バスを乗合タクシーへ統合・再編することにより、利用者数は増加したものの、今後、人口減少・少子高齢化の進行により利用者が減ると、将来的な維持が困難となる可能性があることから、引き続き路線沿線地域と協力して利用者の安定確保に努める。

4. スクールバス

小中学校へ通学する生徒だけでなく、同地域に居住する住民の通院等の交通手段としての役割も担っている。スクールバスは生徒主体の交通手段であることから、今後の生徒の増減を見据えながら、利用者の増加が見込まれる場合には、他の交通体系への転換も検討する。

5. 勇知・抜海地区の交通手段

これまでのJRの乗降調査や令和4年2月に行った乗合タクシーの実証運行の結果から、当該地区においては、自家用車による移動が主となっている状況が確認できた。

しかしながら、今後、高齢化の更なる進行などで運転免許証の自主返納が進んでいくことにより、現状の公共交通では移動ニーズに対して十分な対応が困難であることが予想されることから、持続可能な新たな交通手段の確保に向けて、本協議会として早急に検討を進める。